

平成29年度前期 学群(学部)教育改善計画

学群(学部)名	基盤教育群
学群(学部)長名	金子孝一

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群(学部)で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、昨年度から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課題	事前・事後学修を受講者に促す仕組み
	理由	・受講者に事前・事後学修内容を伝え、さらにその実態を把握する作業は各科目で個々にはされてるが、基盤教育を横断して支援を行える仕組みがない
②	課題	シラバスの熟度並びにクラスサイズ
	理由	・特にクラスサイズが大きい科目では、情報の詰め込み過ぎでのシラバス内容の消化不良が指摘されている ・オムニバス科目や単一シラバスでの複数クラス・複数教員担当科目等で、シラバスに齟齬が出ていた
③	課題	学習環境の未整備さ
	理由	・アクティブラーニングを進める教室環境がクラスサイズとの関連で十分できない ・体育館施設は設備定期メンテナンスが全く不十分で、実技系では受講生の事故にも繋がる恐れがある

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

②	・本学の学内統合システムにも絡むが、Moodle（もしくはMoca）のような基盤教育群で横断して使えるシステムを準備しておくこと、さらに、運用方法について管理者の問題はあるが、ミクロ・ミドルFDにて操作手法の研修をおこなうこと、 ・上記のような支援構築により、課題の出し方や内容など、クラスや担当教員による間接要因の影響を排除していきたい。
	・到達目標にそった情報の選別から、講義内容をコンパクト化するなど、シラバスの熟度に向けた取り組みを行う ・複数教員のオムニバス科目や単一シラバスでの複数クラス・複数教員担当科目などでは、シラバスの普段の見直しを進め、その熟度をあげる取り組みを行う ・成績評価におけるルーブリックの実際の使用も経験値を高めるために必要なので、ミクロFDなどで研修機会を設ける
④	・クラスサイズが変えられないなら、教員配置並びにTA/SA配置、ホワイトボード等設置の工夫を行う ・クラスサイズを変えられるなら、H30から運用される対応教室にての講義等運用を考える ・大和・太白Cとも体育館の設備メンテナンスに予算をつけて確実に実施してもらうよう事務方に要望する

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・Grでの活動は制約があるので、個人で取り組める学習情報の提示により、事前・事後学修の時間の確保を図る
- ・復習の起点としたリアクションペーパーは学生の疑問に答えるうえで有効だけでなく、意識の高い学生発掘に寄与した
- ・各回での即日提出の小テストと次回講義の課題提示を行い、随時に講義内容をまとめたレジュメを配布し、学修機会を与えた

2-(2). 上記の事例を学群(学部)の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

教員会議、科目分野Mtg、研究・研修会（ミクロFD）を使った情報・事例共有を継続的にを行い、教育改善につなげる。尚、検証と改善（抜粋版）は基盤群で共有するにあたり良い資料となる。今後ともこの比較一覧化を継続願いたい。